



世界でも類を見ない海を渡る蝶アサギマダラの謎に満ちた行動を記録したドキュメントである。著者は数学を愛する医師で、理性と科学知によってアサギマダラの生態と自らの行動を通し、読者を冒險小説の世界に誘ってくれる。日本列島を二千キロも移動しながら、秋になると南下(春は北上)の旅を続けるアサギマダラの翅にマー킹(標識)して放した数は十数万頭(凄い!)。福島県のテコ平から放蝶したアサギマダラは台風などの悪天候にもかかわらず、小笠原諸島父島、与那国島、さらに国境を越えて台湾まで移動する。

アサギマダラの性質と能力を知れば知るほど、その予想を超えた知力、体力、行動力を嘆然としてしまう。それ以上に、福島県で著者がマークリングしたアサギマダラをとつもない遠方で再捕獲するという奇跡的な邂逅にも驚く。アサギマダラの寿命は羽化後4~5ヶ月で、与えられた

## 2千キロも移動 奇跡的な邂逅

その生涯時間内で二千キロを移動するのだが、彼らがどこで死んだかは特定しにくいらしい。それでもアサギマダラの一生はただただ飛び続ける運命なのだろうか。海を渡った先に着地するのが目的といふのではなく、想像を絶する距離を飛行する、その行為 자체が目的となる芸術家に似ているといえないだろうか。著者がアサギマダラに興味を抱くのは、彼らが「何を思っているのか」という「心の謎」の探究であるといふ。それにしても自らが放ったアサギマダラの捕獲のために空間的、時間的条件を如何に予測するのか、その直感と出会いの確率にも驚く。アサギマダラが人間の意識(心)に何かを伝達でもしているのだろうか。著者はアサギマダラとの遭遇という物質界での現象はすべて「数学現象としてとらえられ、数式で表現」できるという。芸術創造の謎も数式で表現できませんかね?

評・横尾 忠則

美術家

PHP研究所・1575円／くりた・まさひろ 51年生まれ。群馬ベース大学教授(内科学)。